



日本キリスト教団
名古屋新生教会 子どもの礼拝(CS)
 名古屋市西区天神山3-7
 Tel.052-531-1820
 ホームページはQRコードから→

この冬は暖かいかと思えば一気に寒波がやって来て、地域によっては「記録的な」大雪に見舞われたところもあります。一方で例年になく雨が降らず乾燥が続く、河川やダムが干上がっている地域もあります。それでも季節は巡り、梅や早咲きの桜などが咲き始め、少しずつ春の訪れが近づいています。年度の終わり、そして新年度を迎えるこの時期、みなさんも新たなスタートを切る準備をしていきましょう！

今月の礼拝 単元27: 十字架への道② 📖…お話 🎵…奏楽

月日	週 題	聖書箇所	ティーンズ礼拝 (小4~中学生) 9:00~9:30	プレイ・タイム (小学生/中学生) 9:35~9:55	こどもれいはい (幼児~小3) 10:00~10:20
3月1日	弟子の足を洗う	ヨハネによる福音書 13:1-15	📖 武岡 基 🎵 武岡路実		📖 武岡路実 🎵 安達いづみ
3月8日	ぶどうの木の教え	ヨハネによる福音書 15:1-11	📖 安達正樹 ^{牧師} 🎵 武岡路実	新生保育園 卒園児への カード作り	📖 安達正樹 ^{牧師} 🎵 武岡路実
3月15日	イエスの逮捕	ヨハネによる福音書 18:1-11	📖 草地妙子 🎵 安達いづみ	新生保育園 卒園児への カード作り	📖 安達いづみ 🎵 武岡路実
3月22日	ピラトの裁判	ヨハネによる福音書 18:28-19:16	📖 中根一茂 ^{伝道師} 🎵 武岡路実	イースターに向けて たまごカード作成	📖 中根一茂 ^{伝道師} 🎵 武岡路実
3月29日 進級式	十字架	ヨハネによる福音書 19:17-42	📖 武岡路実 🎵 安達いづみ	イースターに向けて たまごカード作成	📖 武岡 基 🎵 安達いづみ

※聖書箇所やお話の内容・担当者は、変更することがあります。

進級式 3月29日(日) ティーンズ礼拝後/こどもれいはい後 それぞれ礼拝堂にて

保育園や幼稚園を卒園するお友だち、小学校・中学校・高校を卒業するお友だちもいます。また、みなさんひとり一人も4月から1つずつ進級することをお祝いし、新学期からも元気に、より良い生活を送ることができるようお祈りのときをもちます。



来月の行事ですが、予定しておいてください。



CSイースター礼拝はティーンズ礼拝とこどもれいはい合同で守ります。
 ティーンズ礼拝・こどもれいはい〈合同〉 9:00~※
 「たまご探し」 礼拝後~
 ※こどもれいはいのお友だち(幼児~小3)も9:00からの礼拝に出席してください。
 教会に来ていないお友だちも大歓迎！ぜひ参加してください。



今月の聖句

ひとひと
人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、
 ひと ゆた み むす
その人は豊かに実を結ぶ。 (ヨハネ15:5)

今月のさんびか



こどもさんびか 82 (ダビデのこ、ホサナ) 讃美歌21... 307

子どもの礼拝では、2月の第2週からイースター(4月5日)まで、新約聖書の中からイエスさまの十字架への道を学んでいます。

今月のさんびか「ダビデのこ、ホサナ」は北欧でよく歌われる歌で、スウェーデン語でマタイ21:9を歌うものでした。聖書の記載ではイエスさまがろばに乗ってエルサレムへ入られる際に人々が棕櫚の葉を振ってイエスさまを迎えた場面です。詞はフィンランドの賛美歌集によるもので、作曲者はゲオルク・フォクラーさん(1749-1814)です。彼はドイツ(当時は神聖ローマ帝国のヴェルツブルク)の作曲家で、オルガンニスト、また教会音楽家でもあり、1795年に作曲しました。彼の父親がヴァイオリン製造業を営んでいた影響もあり、彼は幼い頃から楽器に親しみ、わずか10歳のときにオルガンを弾きこなし、ヴァイオリンやその他の楽器を巧みに扱っていた記録が残っています。音楽的才能が認められた彼はモーツァルトやヘンデルといった音楽家と同じ時代に生き、互いに刺激を受け合いながら、ドイツ、イギリス、フランスなどヨーロッパ各地に渡って活躍しました。オペラ、バレエ舞台曲、教会音楽、協奏曲から、ピアノソナタや室内楽曲、管弦楽曲など幅広く数多くの作品を残しています。また20代半ばで音楽学校を設立し、オルガンの設計改良やオルガンの一種であるオーケストリオン(※)という楽器を発明しています。



この賛美歌はその後、フィンランド語にも訳され、日本にはフィンランドから伝えられました。日本では、エルサレム入城を記念する歌として、イースター直前の「棕櫚の主日」(今年は3月29日)に歌われることが多いのですが、スウェーデンやフィンランドなどではクリスマスを迎えるアドヴェント第1主日のための歌に指定されています。これは、「主のみ名によって来る」を「キリスト再臨」のことだととらえているためだと思われます。いずれにしても、イエスさまを救い主として讃える賛美歌です。歌詞に何度も出てくる「ホサナ」とは、ヘブライ語で「どうか、救ってください」を意味する言葉に由来し、「アーメン」や「ハレルヤ」などと共にキリスト教の中でよく使われる言葉です。明るく軽快で、1節だけと短いので、とても歌いやすく覚えやすい賛美歌です。讃美歌21にもあり、子どもから大人まで、みんなで歌える賛美歌です。

(※)オーケストリオン…オルゴールを大きくしたような機械で手回しオルガン版の音楽演奏機械の総称。19世紀後半に発展し、空気圧によってリードを鳴らすだけでなく、弦楽器や打楽器など鳴るように発展したのも登場した。1920年代にドイツで盛んに用いられたが、1930年代になって蓄音機(初期のレコード)の登場により姿を消した。

おたんじょうびおめでとう **3月生まれのお友だち**

灰の水曜日からレント(四旬節・受難節)

レント(四旬節とも言い、復活日前の6週間で日曜日を除いた40日間)に入る日が「灰の水曜日」と呼ばれます。今年は2月18日(水)にあたります。この日は旧約聖書のヨエル書2章などが読まれ、額や頭に灰をかぶる特別な礼拝がもたれました。灰は悔い改めの象徴です。初期教会では洗礼を行うのは復活主日(イースター)だけだったようで、洗礼を受ける人たちの備えの時としてレントの40日があてられました。これは、そのまま、荒野で誘惑を受けられたイエスさまの出来事を思い起こさせ、洗礼を受ける準備だけでなく、すべての信徒が自らし打ち克つ(克己)試練の日として定められ、断食なども行ったようです。私たちもこの「灰の水曜日」からのレントの期間(イースターの前日、今年は4月4日まで)には、断食などはしなくとも、自分の欲やわがままをほんの少しでも我慢して、イエスさまがお受けになった苦難を共に感じることができる時としましょう。

